



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって事前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

主は、その復活の後、天へ上るその時に、弟子たちを集めて、こう言われた。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28:20)と。インマヌエル(神は我らと共に)おられる。マタイによる福音書の最初に、主の誕生の告知の中で語られた言葉は、こうして再び、福音書の最後に告げられる。

共におられる主、これは旧新約聖書を貫いて、最も重要な神の約束だろう。アブラハムもイサクも、ヤコブも、モーセもダビデも、みなこの共におられる神、主のみ声を聴いた。しかし、おもしろいのは、それら旧約の先達たちが聴いたのは、「あなたがたと共に」という言葉ではなく、その多くが「あなたと共に」という単数形なのである。まさにパーソナルな存在として、神は直接語られるのだ。ヤコブは兄から逃れベテルの地で、「見よ、わたしはあなたと共にいる。」(創世記28:13)という主のみ声を夢の中で聴いた。モーセは燃える柴の前で、「わたしは必ずあなたと共にいる。」(出エジプト3:12)という神の顕現に遭遇する。ヨシヤにもダビデにも、この「あなたと共にいる」という神の宣言が、告げられるのだ。

ところが、主イエスは、この「共にいる」という言葉を、あなたがたと告げるのだ。それは、11人の弟子たちであり、その中にはまだ主の復活を「疑う者もいた。」(マタイ28:17)と福音書記者は報告する。特別な「あなたと共にいる」でなく、疑う者までも含めた「あなたがたと共にいる」主。この言葉の内に福音の大きな喜びがある。神は、特別な選ばれたものだけ共にいるの

瞑想

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。

マタイ28:20

を天に見送った。まさに彼らの歩んできた道は、神が共におられるそれではなかったか。第2次世界大戦という生死を左右する困難の中を生き延び、教会に仕え、人々に仕え、主の僕として、その人生を全うされた姿は、旧約の先達たちがそうであつたように、主が共におられた。そのことを思う時、その偉大な先達たちを失い、果たして、この私も主が共におられるだろうか

主幹牧師 榎本 恵

ではなく、この弟子たちすべてと共に、いや、まだその復活を疑いの眼差しで見ている者までも含め、世の終わりまでいつも共にいると宣言されるのだ。

それは、現在を生きる私たち全ても、同じように語られる。私たちのアシュラム運動は、相次いで、偉大な指導者を失ってきた。昨年12月の後宮俊夫牧師に続き、今年2月には台湾の高俊明牧師

という、不安と恐れが込み上げてくる。彼らの遺していった業を、この私が守り抜いていくことができるだろうか、彼らの信仰を、この私が受け継いでいくことができるだろうか、そんな思いがよぎってくる。私には彼らのような力はなく、知恵も乏しい。しかし、その時に、この主のみ声が響いてくるのだ。「わたしは世の

終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。(マタイ28:20)

20) 彼らの肉体は灰となった。その存在は、この世にはもうない。けれども、それは決して世の終わりではない。主は、この世の終わる時まで、いつも私たちと共におられる。あの人たちと共におられたように。

「一人ぼっちであること」から「かけがいのない存在」へと変わる時、私たちは他の人々も、たった一人のかけがえない存在だということを楽しぶことができるでしょう」

私たちは皆、時として頼るべきものを失い、一人取り残され、途方にくれる。しかし、その時に、その一人ぼっちであることが、神共にいます、かけがえない存在であったことに気づくのだ。信じることに遅く愚かな私も、あなたも、あなたも、そしてあなたも、主はかけがえない一人として「あなたがたと」呼び、共にいると約束してください。

友よ、孤独であることを恐れるな。一人ぼっちであることを嘆くな。神は、その私をも、あなたたちの中に含めていてくださるのだ。世の終わりまで、私たちと共におられる主に目を注いで行こうよ。

私の信仰の歩み

教会、そしてアシュラムとともに。
(聖愛教会・修養会での証し)。
小栗牧師からのご依頼受け)

猪瀬 和子

私がバプテスマを受けたのは、1981年8月です。その時古い自分が死に新しい命に生きる約束をして頂きました。がピンときませんでした。山口牧師にこれからは毎週礼拝

私を導いて下さった熱心な姉妹方は「必ず先に聖書を読み、その所の一日一章(榎本保郎著)を併用しなさい」とおっしゃいました。言われた通り頑張りました。一回目の通読が終わった時の喜びは今も忘れられません。それからアシュラムに導かれまし

とです。「朝の15分はあなたを変える」と教えられ、毎朝聖書に向かうことで変えて下さる方がいらっしゃることを信じて続けて来ました。聖書に向かうこの時間は魂の喜びの時間となりました。讃美歌も口に出てまいりません。お祈りも致しません。

聖書は「いつも喜んでいなさい。たえず祈りなさい。すべてのことに感謝しなさい」と教えて下さっています。喜んでいられますが、つらい時もありますが、喜んでいなさいとおっしゃっているのではないかと思います。自分を喜ぶのでなく神を喜ぶことと受け取っております。イエスさまが十字架にかかり、この上ない苦しみと恥辱を耐えてまで私達の罪を赦して下さいました。そのことを深い思いで受け止めた時、自分の胸に迫られるものがあり、悔い改めへ

と導かれました。「あなたの罪は赦された」と神さまは言われ、聖い者としてキリストの幹につなげ、新しい命に生きる者として下さりました。更に復活の命にあずかり、主が共に歩み「あなたの名が天に記されていることを喜びなさい」とあるようにこのような者の名が天に記され、永遠に生きるものとして扱われると言われる神さま。そのご愛に目を向けたえず神を喜ぶ者でありたいです。

我が家ではミニシアシラムの家庭集会をしております(広野祈りの家)。周りで心の病んだ方達と交わるようになり、その方達が見ることによって心が楽になられたらとの思いで始めました。12年目を迎えています。メンバーも変わり聖愛教会からも来て下さるよ



第42回 阪神アシュラム (母の家ベテルにて)

くこと、祈ることに語られた言葉として聴いていくこと、祈ることは、聖書を自分

に語られた言葉として聴いていくこと、祈ることは、聖書を自分

に語られた言葉として聴いていくこと、祈ることは、聖書を自分

に語られた言葉として聴いていくこと、祈ることは、聖書を自分



阪神アシュラムの夕べは、賛美と証しの時

- ご献金者 敬称略
- 1月分 (クリスマス 献金含む)
- 村瀬 俊夫
- 金山 良雄
- 和田万寿男
- 和賀 恭子
- 玉置 恭子
- 坂神
- ミニアシュラム
- 橋本つ子
- 榎本 和子
- 中村 土朗
- 守弘 隆三
- 島 勝
- 上田 勝
- 宗教法会
- 聖書友の会
- 相原 典之
- 山岡 義明
- 宮崎 信義
- 眞楽美子
- 井置 利男
- 上柳 京子
- 牧方 朝子
- 人見 朝子
- 竹倉みゆき
- 千葉よし子
- 明石シオン
- 信治 茂夫
- 渡辺 千歳
- 鈴木 京子
- 越智 孝子
- 上柳 昭子
- 香川 植美子
- 佐賀 美子
- 正岡 リコ
- 山田 久子
- 吉田 美子
- 西野 栄子
- 無名氏
- 日本
- キリスト教団
- 広島福島教会
- 永島 哲造
- 谷 朝子
- 中谷 朝子
- 室崎 洋子
- 常任運営委員会
- 向井 悠治
- 菅原 知子
- 河村 和子
- 加藤 博司
- 川口 名氏
- 無名氏
- アシュラム事務局
- 藤原 睦子
- 市川 神子
- 福嶋久仁子
- 福岡聖書教室
- 樋口 栄子
- 鷹野 恵子
- 橋本 聖書教室
- 伊達 知恵
- カフエいづば
- 聖書入門講座
- 大山 悠子
- 持田 元志
- 亀井 洋志
- 森山 直子
- セーター
- 聖書教室
- 高山美津江
- ちいば教師
- 記念チャペル
- 夕礼拝
- 年頭アシュラム
- 宮澤 豊

うになり、ひとり、又ひとり増しております。感謝です。「汝ら退きて我の神たるを知れ」静かな午後、ひとときめいめいが聖書に向かうこの時間は神共にいます時であり、自分の心がハダカになれる時です。皆が雰囲気を作って下さり、かた苦しくなくなごやかな集会です。

教会内では山口康男兄の呼びかけで「新約聖書に聴く会」に参加しております。この時間は礼拝への心備えの時ともなっています。ピリポがナタナエルに「来てみなさい」と言われた時のように参加下さればと思えます。目に見えるものを目を注ぎやすい私達ですが見えないものに目を注ぐ群が増えて行きますよう願っております。

(日本キリスト教団) 神戸聖愛教会・阪神アシユラム 広野祈りの家他アシユラム参加多数)

鹿屋 キリスト教会
鹿屋 キリスト教会
脇 万里子
脇 萌子
脇 伊藤美恵子
吉川 禮子
横山 宜和
加々美 要
李 非玲
伊那福音教会
水野 晶子
瀬谷 哲司
木村 晶子
和田 哲政
岩崎 浩二
榎本 恵子
榎本 滝澤佐和子
榎本 大浜
キリスト教会
榎本 光太
米田 康子
米田 歌子
東京聖書教室
山崎 義人
年頭アシユラム
戴金
安達いづみ
代蔵 元江
伊達 平和
長町 昭子
湯野 静子
99口
¥1,149,417
ヨセフ基金
(義援金)
水田 京子
西野 栄子
安仲 萌子
ちひろば
アツちゃん・
シユラム君
米田 康子
常任運営委員
6口
¥30,100

アシユラムの恵み その5 アシユラムでの恵み 常任運営委員 山岡義明

1、今治アシユラム
50年前、バプテスマを受けて10年目に初めて今治アシユラムに参加し、「朝の15分があなたを变える」とのお勧めをいただき、朝一番に聖書のみ言葉に聴き、声を出して祈ることができるように変えられた。そして全国の祈りの友と祈り合うことよって、神様はその祈りを聞き入れて下さることを体験し、神様から沢山の恵みと祝福をいただくことができた。

1、年頭アシユラム
1987年(第12回)に金田福一先生(四国三島真光教会牧師)に出会い、著書『救われた生活』に「キリストの愛に感謝」の言葉と署名をいただき、朝ごとに「座右の本」として愛読している。先生が1992年77歳で亡くなられるまで「土屋通信」による交流をさせて

いただき音楽好きの先生からたくさんの作詩・作曲の楽譜をいただく恵みにもあずかされた。今も毎朝、『霊想の糧365日』などの著書を何冊も読んで「信仰生活の糧」とさせていただいている。

1、国際正義平和
2007年大阪での台湾との協約による日本での最初の国際アシユラムにおいて、実行委員長の重責を賜った。保郎牧師召天30年の記念会を兼ねて三浦光世師を講師に迎えて200名を超える参加者があつた盛大な集会となった。実行委員長の役得なのか三浦光世師から署名入りの『三浦綾子創作秘話』をいただいた。

2017年には神戸で保郎牧師召天40年の国際アシユラムに参加して、森下辰衛師(三浦綾子読書会代表)の力強い講演

を聴き、著書『氷点解凍』に希望とは意思にかかわらず愛すること」との言葉と署名をいただいた。

1、京都桃山アシユラム
2006年の奉仕者履本恵牧師と出会い、アシユラムセンターの常任運営委員を代表して主幹牧師として招聘する話し合いの時を持つことができた、神様の不思議な計画に感謝の思いを強くさせていただいた。

1、ガリラヤ湖アシユラム
花井に在住されていた黒田朔牧師引率のハワイアシユラムの友と榎本恵牧師を団長とするアシユラムの友と合同で持たれたガリラヤ湖畔でのアシユラムに参加できた。

イエス様が伝道され、働かれた場所でイエス様の語られたみ言葉を聴き、ハワイの友と祈り合えた喜びは大きく恵まれたアシユラムであった。

1、台湾アシユラム
200名を超える台湾のアシユラムの友との熱気溢れる新竹でのアシユラムで、愛餐式にあずかり、台湾の歴史と伝道活動を学び、榎本保郎牧師の台湾での働きが今も根強く生きていることに感動した。台湾愛修会とアシユラムセンターとの合同国際正義平和アシユラムへの端緒となるアシユラムに参加できたことは感謝であった。

1、愛修会
200名を超える台湾のアシユラムの友との熱気溢れる新竹でのアシユラムで、愛餐式にあずかり、台湾の歴史と伝道活動を学び、榎本保郎牧師の台湾での働きが今も根強く生きていることに感動した。台湾愛修会とアシユラムセンターとの合同国際正義平和アシユラムへの端緒となるアシユラムに参加できたことは感謝であった。

常任運営委員会前日に会計1ヶ月分をまとめる御用をして下さる山岡兄(左)と鎌田兄。

常任運営委員の皆様、2年間のお働き、感謝です！アシユラムの友からの差し入れにも感謝。



常任運営委員会前日に会計1ヶ月分をまとめる御用をして下さる山岡兄(左)と鎌田兄。



常任運営委員の皆様、2年間のお働き、感謝です！アシユラムの友からの差し入れにも感謝。

新修道場のために
たびんちゅ牧師
梶原 道子
2口
会堂改築のために
速明 1口
るっちゃん
るんるん福音堂
のために
メヌエット
おぼさん
1口
センター修復のために
竹倉みゆき
1口
合計
109口
¥1,292,517
尊い戴金、ご献品、お祈り、お便り、電話メッセージ、そして、共にアシユラム！感謝いたします

*** 榎本てる子師 記念会 ***

榎本てる子師が天に帰ってから1年が経とうとしています。その事を覚え、記念会を下記のように開きます。平日昼間の都合がつけにくい時の開催となり恐縮ですが、ご案内させていただきます。

日 時：2019年4月25日(木)
13:45~17:00(開場13:00)
会 場：日本キリスト教団京都葵教会
〒606-0812 京都市左京区下河原町30
<https://www.kyotoaoikyokai.com/>
プログラム：13:45~14:45 キリスト教式礼拝
14:50~16:30 茶話会



生涯の同志、青木理恵子姉と琵琶湖畔へ。
家族・カナダの友人達に会うため。
(2017年11月)

※参加費、申し込み不要です。

なお、榎本てる子師の新刊出版予定
(2019年4月20日発売予定)

日本キリスト教団出版局より『愛し、愛される中で-出会いを生きる神学』

また信仰の友が帰天。淋しくなりました。
今は慈愛深い主のみもとで憩っておられることと思います。
御遺族様の上に主のお慰めとお励ましとがありますように。



- ◆ 馬杉 一重 姉 3月10日 御召天
榎本保郎師の信仰に共鳴され、進んで御協力下さった(アシュラム誌編集にも)
お姿、忘れることはありません。
- ◆ 植松 貴美子 姉 3月15日 御召天
五十数年間、変わらぬ御厚情をもって接して下さいました(今治教会時より)こと、
ありがとうございました。

榎本和子による弔文より抜粋

第16回 国際正義平和アシュラム in札幌

主 題：大地に響け、平和の調べ
 主題聖句：「いと高きところには栄光、神にあれ、
 地には平和、御心に適う人にあれ。」 ルカ 2：14
 日 時：9月30日(月)PM4:00 ~ 10月2日(水)PM12:00
 ☆平和スタディーツアー(自由参加)
 ~10月4日(金)PM1:00 千歳空港解散
 会 場：シャトレーゼ ガトーキングダム サッポロ
 奉 仕 者：ジュランジール・柳原一蔵師
 (世界アライアンス教団理事長、在ブラジル)
 《2日目の集い》キャロルサック宣教師(リラブレカリア・祈りの堅琴 主唱者)
 台湾原住民教会 皆様の讚美
 アイヌの皆様方の歌



たびんちゅ恵牧師、長い旅に出発の朝。
みことばと皆様のお祈りに力をいただきつつ。



大雨漏りで、穴がボツボツあいてしまった修道場天井、こんなに綺麗になりました。皆様からの義援金、感謝致します。今まだ修復中。(センター、アンナ祈りの家)

FEBCラジオ再放送のお知らせ

『たびんちゅ(旅人)牧師の今日も求道中』
 2019.4.2~6.25 毎週火曜日(予定)
 夜10時29分~ 12分間
 インターネット <http://www.febcjp.com>



アシュラムセンターホームページ、ニューストピックスに、後宮師哀悼式、ブラジルルージラモス教会アシュラムの動画が掲載されました。

2018年12月25日

後宮俊夫牧師前夜式で語られた榎本恵牧師の式辞

聖書の中で、エルサレムに入城するイエスが、弟子たちに繋いである一匹のロバを連れて来るように命じる有名な場面があります。マタイ福音書はこう書きます。

「もし誰かが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。」 そうなのです。何か行動を起こす時、必ず人は、何かを言います。私たちは、それを恐れ、それに迎合してしまうのです。しかし、その時に主がお入り用なのだという、真実があるのです。

後宮牧師は、最初から、わたしの能力や経験など信じておられなかったでしょう。しかし彼は、その小さく弱く頼りないわたしをお入り用だという主イエスを信じきっていたのです。それが、後宮牧師の指し示す星なのです。

あの榎本保郎という無茶苦茶を絵で描いたような牧師を、3歳も年下にも関わらず兄貴と呼び、そのやり残した後を最後まで責任を持ってくださり、いやそれ以上に、日本のキリスト教会を変革し、幼児教育、障害者福祉、大学校経営、そして老人福祉と様々なことに尽力し、それぞれの業を見事に成し遂げてこられた後宮牧師。けれどもそれはただのヒューマニズムや、慈善事業としてなされたものではありません。そこにいつも、先生は、あの飼い葉桶の中に寝かされている幼子を見ていたのです。そして、それこそが、どんな権力や財力、知力よりも確かであり、信じるに足るものであることを確信したのです。

それは、あの博士たちが、権力者ヘロデの命令に従わず、夢のお告げを聞いた通り、別の道を帰っていったのと同じなのではないでしょうか。まさに、後宮牧師は別の道を行った方なのです。

さて、いよいよわたしの話も終わりにになりました。こうして主のご用のために、その生涯を歩み続けた後宮牧師を神は、天へ引き上げられました。23日の晩のことを、義理の息子さんである森口茂さんはこう話して下さいました。「目を爛々と輝かせ、あの敬和大学設立時の苦労話を滔々と語られていた」と。それはまさに、最後の時を迎えたモーセのようでありました。「モーセは死んだ時、120歳であったが、目はかすまず、活力も失せてはいなかった。」と聖書は証言します。

しかしモーセであっても、その最後の時はくるのです。わたしの息子が、「後宮先生でも死ぬんだね。」とポツリとつぶやきましたが、そうなのです。後宮牧師も、モーセも、その業を終え、天へと帰るのです。神は無情です。

その約束の地を目前にしなが、そこへ入ることを許されないのです。モーセが約束の地カナンをはるか見下ろしたように、後宮牧師もまたその約束の地をはるか見渡しなが、そこへ入ることを許されることなく、召されました。

では、後宮牧師に見せられた神の約束とは果たしてなんであったのでしょうか。

ここでもう一度、インタビュー最後の言葉を引用しましょう。

戦後70年あまりたったいまでも戦争当時を思い出す。「あのときは自分たちの惨状しか見えなかった。相手の惨状は見え、心の傷も見えなかった」戦争から戻り、生きる希望を失ったときに出会った榎本牧師の姿を通して学んだキリストの教えをかみしめる。「平和、平和と口で言うだけでも実現しない。『自分だけ』ではなく、互いに『許すこと』がなければ平和は訪れない」（産経新聞インタビューより）

この主の平和こそ、後宮牧師の生涯を通し、神が約束されたカナンの地ではなかったのでしょうか。口先だけの「寄り添う」ではなく、本当にそこに飼い葉桶に眠る主を見出し、そこにこそ真実があると、主をお乗せし、主に信頼し別の道を行くこと、これこそが、星となった後宮俊夫の指し示しているものではないのでしょうか。モーセを失ったイスラエルの民は、30日の間、悲しみの喪に服したと聖書は語ります。そして、その後、イスラエルの民は、ヨシヤに率いられその約束の地を目指し、再び歩み始めるのです。今私たちは、後宮俊夫という巨星を失いました。悲しみは続くでしょう。しかし必ず、その星は私たちを導き、その約束の地主の平和へと入るのです。どうか、この星を見て喜びにあふれるものとなってまいりましょう。（終わり）



榎本てる子師に、語りかけ、祈られる後宮師。（病院にて。てる子師召天前日）



るつ子姉のオルガン発表会に。2018年3月 安土セミナリヨにて

